



日本リベンジーズ

EP.

1

日本リベンジーズ

日本リベンジーズ

与国 秀真

YOKUNI Hotsuma

1945年8月15日

だいとうあせんそう  
大東亜戦争終結後、

地獄最深部  
では、

ゴ  
ゴ  
ゴ

日本の敗戦を祝した  
悪魔たちの宴が催さ  
れていた――

ガ  
ハ  
ハ  
ハ





やっと日本が  
降伏した！



これでようやく  
サムライも  
いなくなる。



アメリカを使って  
徹底的に  
痛めつけて  
やったからな

ぎやいはいはい

日本が滅びるのも  
時間の問題だ！



びき



お前たちは  
人間という家畜を  
知らなすぎる

ヤツらは時に  
変容する



ド  
ド  
ド

ヤツらの中には、  
平気で命を捨てる  
バカが稀にいる。

バカに釣られて  
人間が束になったら、  
コントロールは難しい。



ルシファー様が  
人間を警戒する  
なんて珍しい…



で、では  
どうやって  
日本を滅ぼせば？



欲望と  
暴力だ。



まず、  
ヤツらの欲望を  
徹底的に煽れ。




金、権力、  
地位や名声、  
酒と女…



少し  
刺激してやれば、  
欲望は勝手に  
膨らみ続ける。

膨らみ過ぎた  
欲望は、  
必ず対立を生む。



膨らんだ欲望を  
満たすため  
人から奪うこと  
ばかり考え、


バカ同士で  
「束になろう」  
などと愚かな事は  
考えなくなる。

コイツの人脉  
使えそうだな


コイツがどう  
いくつ  
引く張るか...



そして  
暴力。



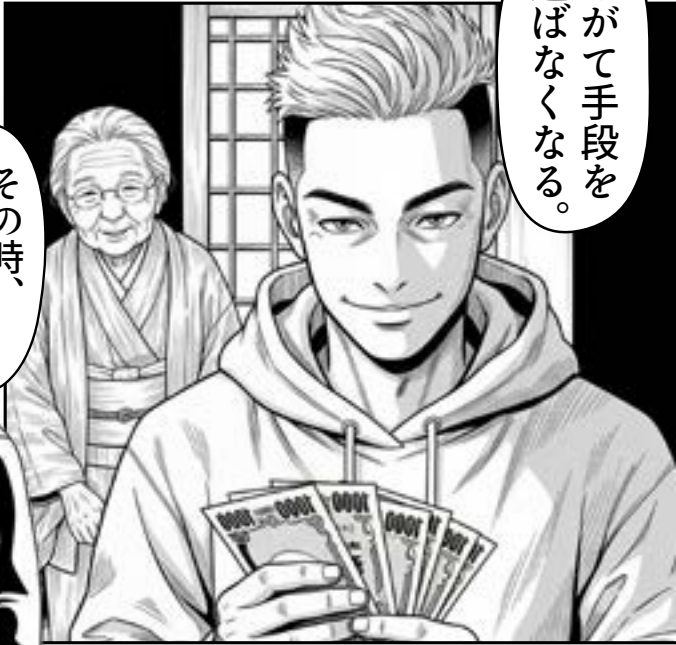
暴力を  
美化する漫画、  
テレビや  
映画を流行らせ、



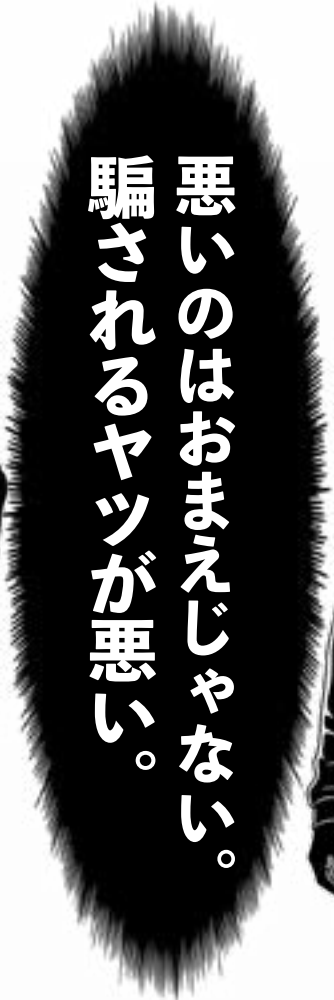
我々の価値観を  
徹底的に人間どもに  
叩き込め。

暴力を肯定する  
ようになれば、  
ヤツらの「良心」  
とやらはマヒし、

やがて手段を  
選ばなくなる。



その時、  
囁いてやれ。



悪いのはおまえじゃない。  
騙されるヤツが悪い。



真面目に働いても  
どうせ  
貧乏暮らしから  
抜けられない…

わずかに残った  
“罪悪感”を  
誤魔化すため、

ヤツらは  
我々の声しか  
聴かなくなる。



そうなれば人間は、  
我々の思い通りに  
コントロールできる。

そういう“家畜”を  
増やしていくのだ。

サムライの  
一匹が残ろうが、

大衆の「民意」  
には抗えまい。

民主主義の  
弱点を  
利用しろ。

人間という  
家畜の躰さえ  
しておけば、

日本人で  
あろうと我々が  
支配できる。

そうすれば  
日本の滅亡など  
造作もないことだ。



あと少し、  
あと少しだ。  
日本さえ  
潰しておけば…



心得ました!







昔はアホみたいに  
筋トレやってたな—



**男塾!**  
目下!

**男塾!**

いけー!  
見立!



**男塾!**

おとし  
漢を  
みせろ!



**グ  
グ**

**男塾!**



**グ  
ツ**



**う  
おおお!**





アイツ、  
根は真面目な  
ヤツだったな。

放送委員とか  
一緒にやってたし。

いつからだろうー

アイツの  
ああいう笑顔を  
見なくなったのは…



いつの間にか、  
“半グレ”なんて  
呼ばれて…



六本木



見立…





お前、  
そんな生き方  
してたら、

畳の上で  
死ねないぞ。



上等ですよ。



だから上等だって  
言ってるだろうが！



刺せば監獄、  
刺されれば地獄、

そんな人生で  
本当にいいのか？



あん時のド根性、  
一体どこ  
行ったんだよ！

そもそも  
アンタこそ、  
どうしちゃまった  
んだよ！



喧嘩がすべて  
じゃないだろ？



腑抜けになっち  
まったんですか？

自分は  
生涯現役ですよ！



...



オレは今でも  
熱く燃えて  
いるよ。





その答えは  
割と簡単で、

「強さ」  
というものに  
憧れを  
感じたからだ。



女の子が  
ぬいぐるみを好み、



そして大人に  
なっていくうちに



男の子が強い  
ヒーローに憧れて

オレたちは、

「強さ」  
というものを  
完全に  
はき違えて  
しまったんだ。



もっと  
腰を入れろ！

パンチ  
は手で打つな！  
腰だ！腰！

ハイ！



喧嘩に勝つために  
技を磨き、



もう一回！

押忍！

ボディビルジムで  
体も鍛えた。



喧嘩に勝つことは善、  
喧嘩に負けることは悪、



そんな価値観に  
完全に染まり切って  
いたんだ。

喧嘩から  
逃げることは最悪、



喧嘩に勝つことは善、  
喧嘩に負けることは悪、

トワイヌ・ボーン

# でもオレは、生まれ変わった。

哲学者の  
ウィリアム  
・ジェームスは言った。

WILLIAM  
JAMES

人間には  
一度生まれ  
(トワイヌ・ボーン)  
の人と

二度生まれ  
(トワイヌ・ボーン)  
の人がいる。

オレは人生を悔い改め  
「トワイヌ・ボーン」を  
果たすことができたが、

見立は狂った強さを  
信じ「生涯現役」と  
貫いてしまった…



この物語は、  
漫画であって  
漫画でない。

そして  
フィクション  
ではない。

私たちを取り巻く世界で  
実際に起こっている、  
目に見えない「戦争」  
を伝える  
※  
真実のストーリーだ。

※ストーリーは、ノンフィクションをベースにフィクションを織り交ぜています。

※ AI で画像を生成しているため、人物のビジュアルに一貫性がなかったり、表現が稚拙な部分もありますが、ご了承下さい。

しかもこの戦争は、  
昨日、今日に始まったの  
ではなく、

遥かなる太古から  
続いている。



実際に、  
「日本の文明は、  
中華文明を『惑星』と  
するなら、

その周り回る『衛星』  
のようなもの、  
と考えられてきたが、



しかし近年の  
研究によって、

「縄文時代から続く  
固有の日本文明が  
存在する」

ということが、  
明らかになって  
きている。



青森県・三内丸山遺





この真実の戦いは、  
日本人が目覚めずして  
日本を守れないばかりか、  
世界も滅んでいく。



私たちは今こそ、  
真実の日本の姿を  
知らなければならぬのだ。



90年代、  
チーマー全盛期。

俺に殴られたい  
ヤツさっさと  
出てこー！



今から数十年前、  
オレはバカだった…



関東の若者が  
アウトロイと化し、  
喧嘩最強を目指して  
街で競い合っていた。



俺たちはまるで、  
都会をウロつく  
血に飢えた  
狼のようだった。

言葉も持たず、  
目の前の敵に  
ただ牙を剥く  
野性の狼――



あの頃…  
違う街に住むヤツ、  
違うチームのヤツ、  
違う暴走族のヤツ、

上等だ！  
ひき肉に  
してやるよ！

テメエらは  
ゼツテエに  
許さね！





ただ  
“それだけの違い”で  
いがみ合って  
喧嘩になったりした。



街に出ては  
知らないヤツと  
殴り合う。



俺は喧嘩が  
好きだった。



殴り合った後は、  
勝ち負け  
カンケーなく、  
馬が合えば  
一杯飲みに行く。



喧嘩する度に  
仲間は増えたし、  
敵同士を繋いでた  
から、仲間の輪も  
広がっていった。



これが漢の  
喧嘩ってもんだろ？



俺を「東京最強」と  
仲間が呼んだり、  
後々ネットでも  
「関東最強」とか言われる  
ようになったのは、

俺が特別強かった  
からじゃないと思う。

敵をみんな仲間に  
変えちまったから、  
喧嘩する理由が  
なくなっただけだ。

そんな俺にも、  
「目の上のたん瘤」  
がいた。

# 金村剛弘

化け物みたいに  
喧嘩が強い  
男だった。


だがしよせんは  
同じ穴のムジナ。  
すぐに意気投合して、  
いつの間にか  
仲良くなった。

男はよ、タイマン  
張ったらあとは  
「ダチ」 だろ！

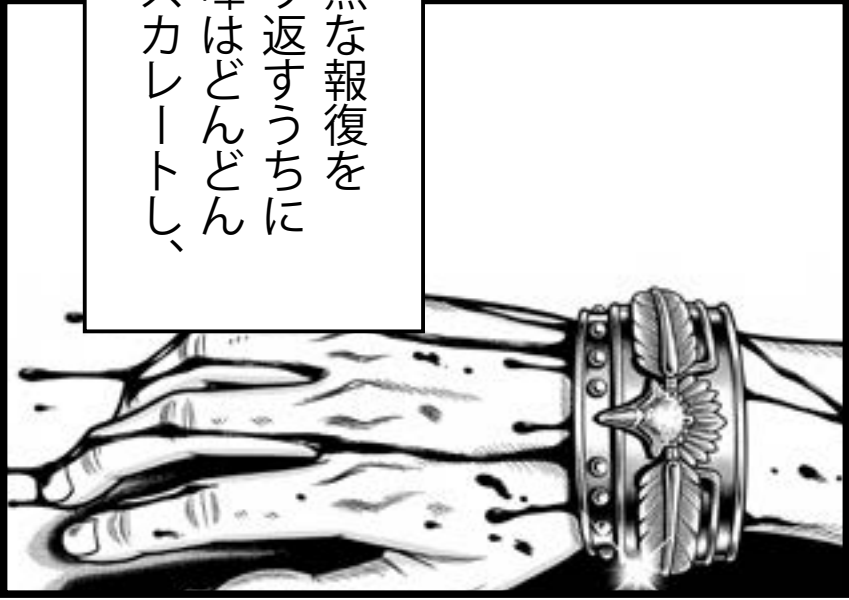
それは見立も  
同じだった。

でも、  
「何か」が  
違ってたんだ。

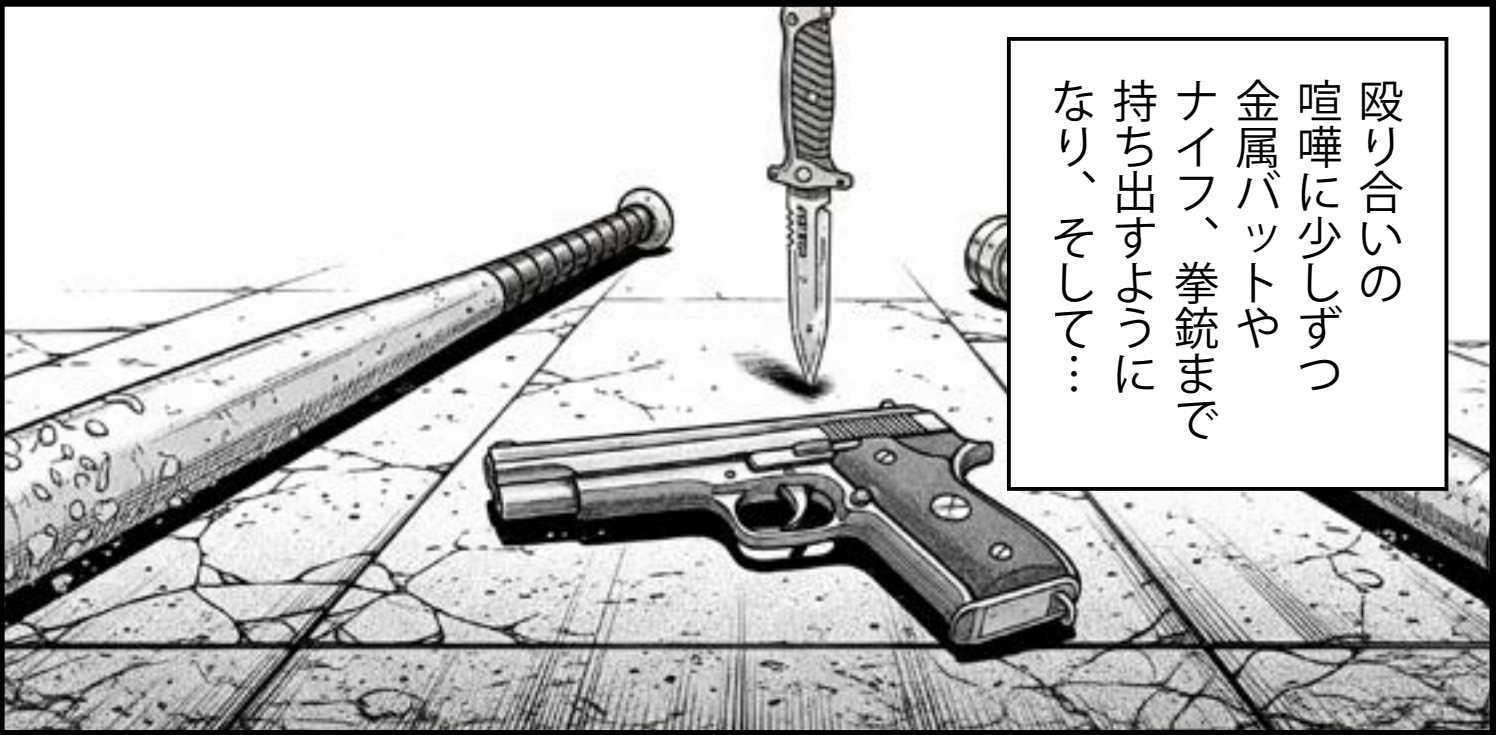





見立たちは  
勝つためなら  
なんでもやった。



強烈な報復を  
繰り返すうちに  
喧嘩はどんどん  
エスカレートし、



殴り合いの  
喧嘩に少しずつ  
金属バットや  
ナイフ、拳銃まで  
持ち出すように  
なり、そして：



喧嘩に負けても  
必ず報復をし、  
徹底的に  
相手を打ちのめした。

# 殺し合いが 始まった。



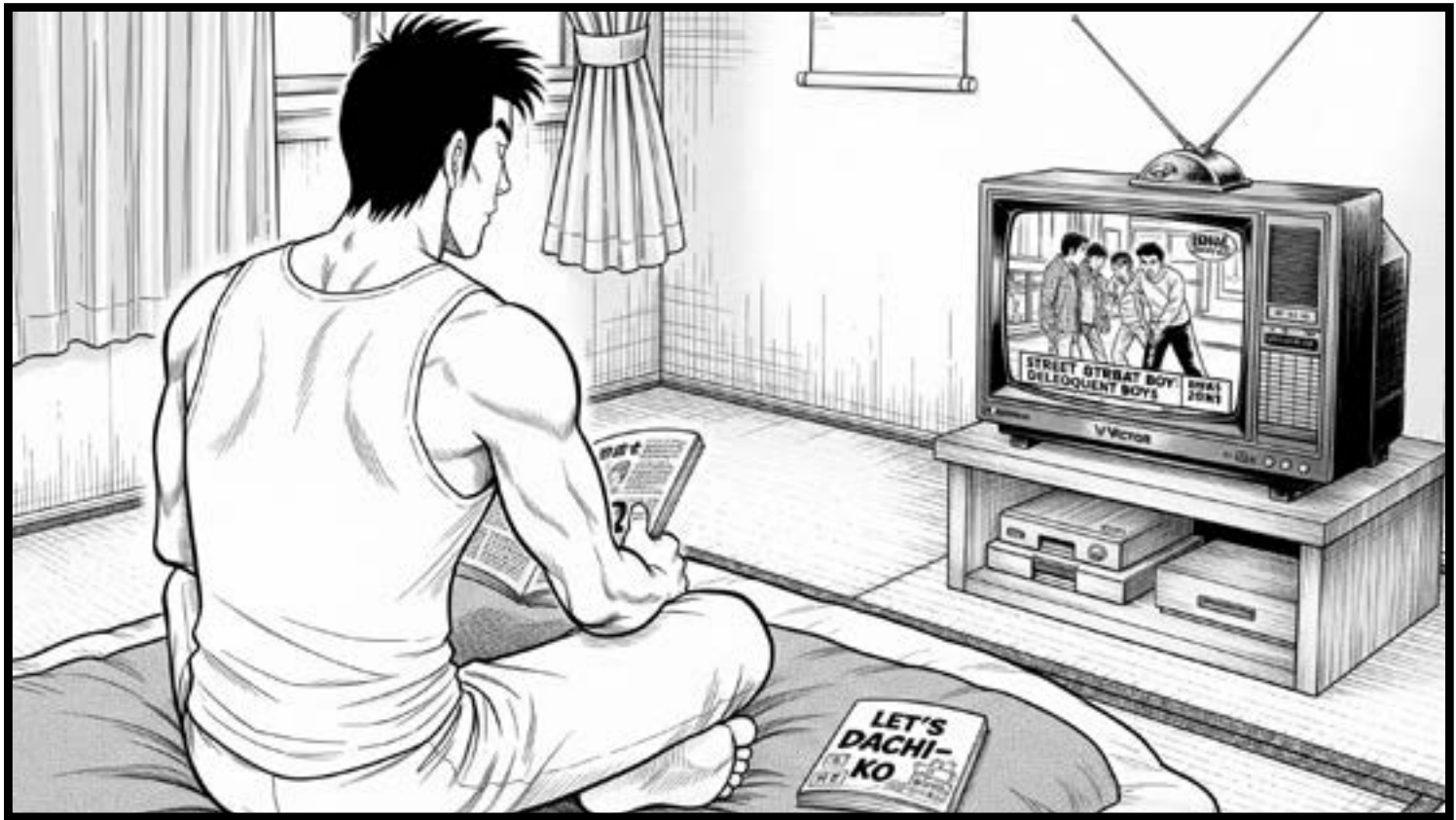
1997年7月7日、  
『関東連合』は  
「五反田七夕抗争事件」  
という  
暴走族100人による  
乱闘事件を起こし、

十八歳の若者が  
刺されて死亡、  
他二名も刺されて  
重軽を負った。



いつか  
こうなるんじゃないか  
かと思っていた。

絶対に退かない者と  
絶対に退かない者が  
ぶつかり合えば、  
最後に辿り着くのは  
「死」しかない…

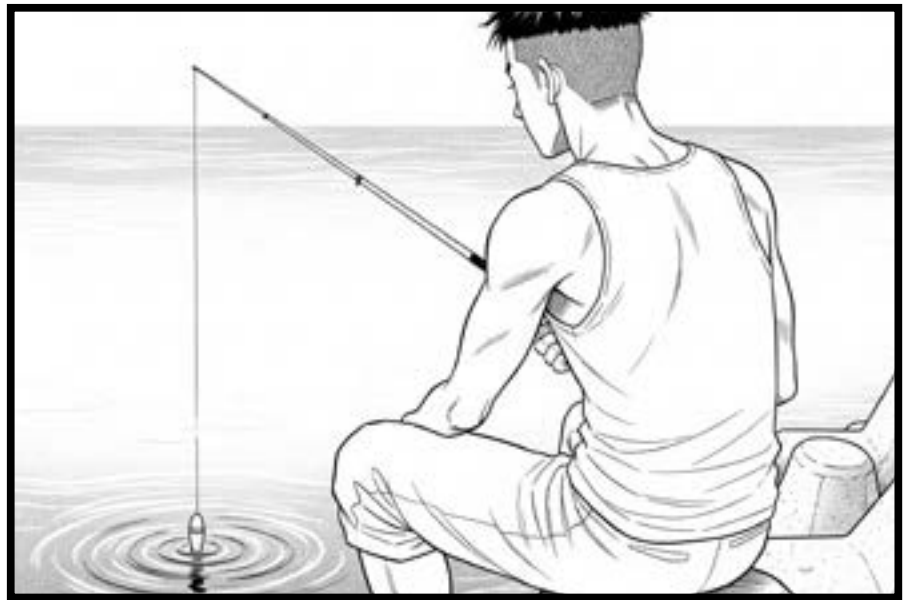


その頃オレは  
人生を変えようと  
していた。

新たな人生を  
生きるため、  
どう真面目に  
生きていくか、

そんなことを  
考えているうちに、  
沖縄の宮古島に  
流れ着いていた。





俺は、沖縄で  
生まれ変わった。

沖縄で果たした  
「トワイヌスボーン  
二度目の誕生」は、  
別の機会にゆっくり  
語ろうと思う。

ともあれ、  
俺は結婚を機に  
「谷山」から妻の姓の  
「よくに与国」となり、  
人生をぜんごさいだん前後裁断した。

しかし見立や  
金村先輩たちは、  
そのまま  
六本木などで暴れ続け、  
そして金村先輩は  
殺された。

十七年が経過した今でも、  
犯人不明の未解決事件だ。





そういえば  
昔、不思議な  
体験をした。

あれは二十歳に  
なったばかりの  
頃だったと思うー

ギ  
ャ  
ハ  
ハ  
ハ



また新聞の  
勧誘か？



ド  
ン  
ポ  
ン



ガチャッ

新聞なら、  
チヨロ間に合って  
ます。





これ……

なんだ



なんか  
ヤベエの  
来たな……



お前に用がある  
ツラを貸せ



スライア……



誰だお前？

そもそも  
人間か？  
キモいぞ！



うるせえー！  
オコシオコシ  
ついて来いー！



誰が行くがよー！  
ふざけんな！

ニダリ





誰だよ？  
お前ら……



お前には借りがあるから

全部喰らわしてやるよー！



あー、俺の人生…



やつぱりこんなもんか…



な、なんだ  
今の夢…



「ヤツらは俺に  
「借りがある」  
と言っていた。」

お前には借り  
があるから

全部喰らわして  
やるよ！



誰かに  
殺された…

ありえない  
話じゃない…



いつか俺は、  
殺されるんだろうか…

不思議な  
体験だった。



なんか  
年下だった  
ような…

そして、自分が  
殺される悪夢なんか、  
すっかり忘れていた頃…



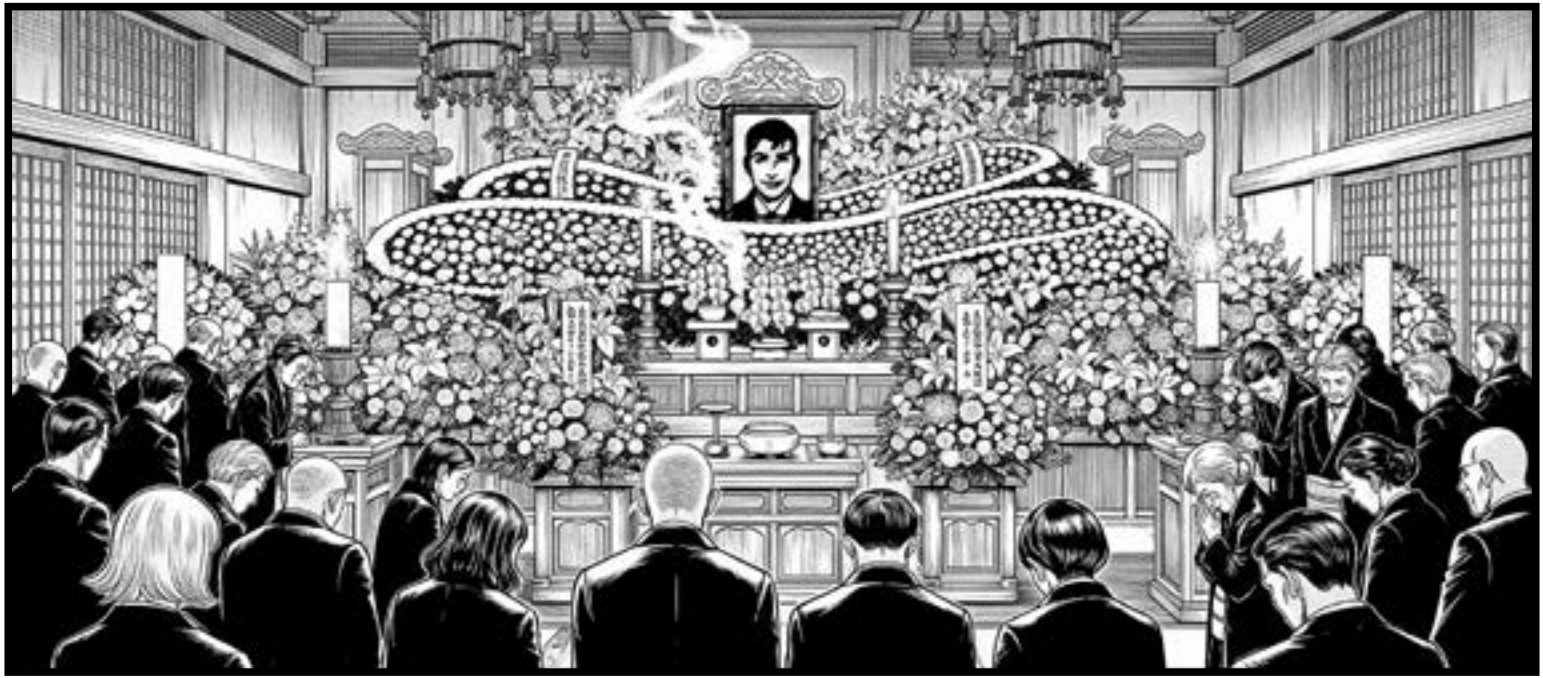
殺されたのは、俺じゃなかった。

抗争の果て、  
年下の人間に  
襲撃されてしまった—



金村先輩が殺された。









イキナリ  
消えといて、  
今さら何なんだよ…



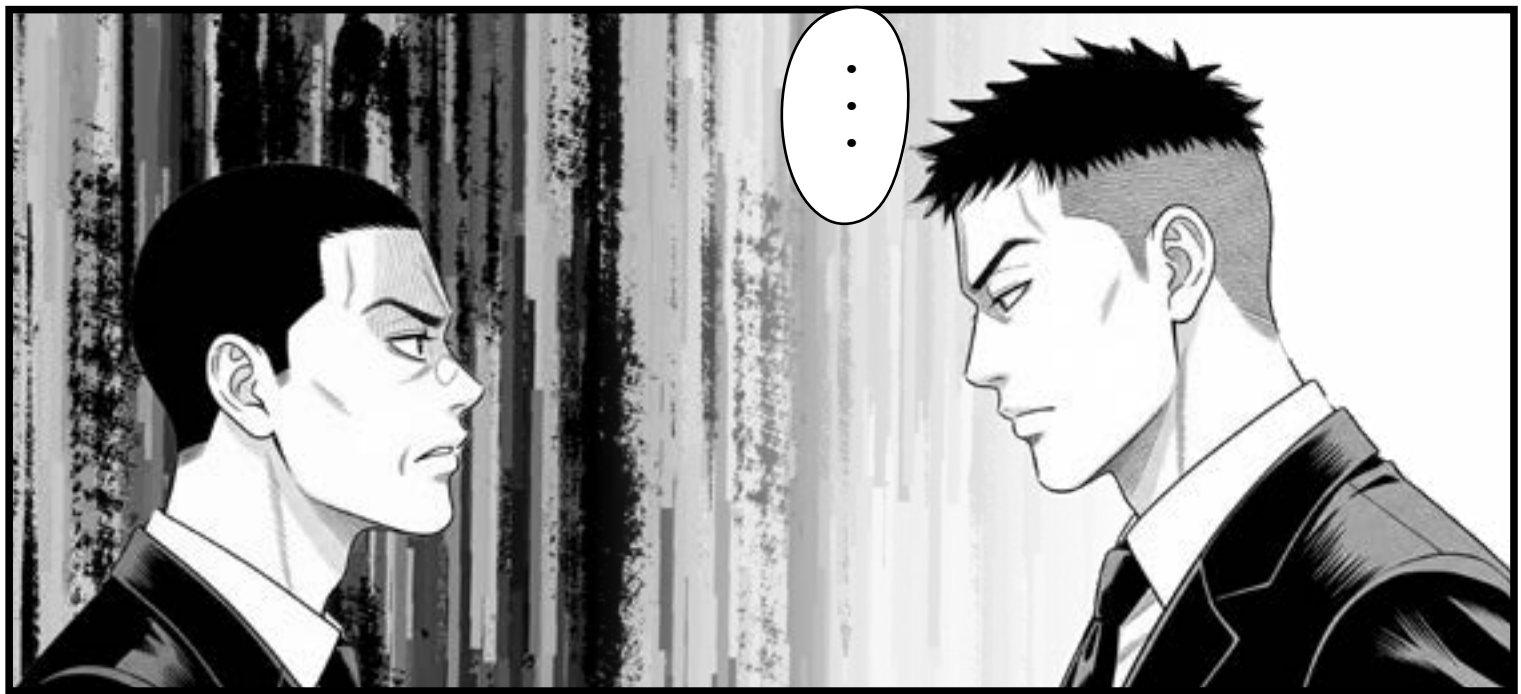
そんなこと、  
こっちもだって  
分かってんだよ…

今さら  
退けるかよ…



勝手なこと  
言ってるじゃねえ！

アンタにはもう  
関係ねえだろ！



...



優りを守りだしたよ。

突然の事で。

ご愁傷様です...

おばさん...




帰るぞ。

もう、俺と見立は  
中学の先輩と後輩では  
なくなっていた。

俺の声はアイツには  
届かなくなっていた。


それでも、  
ここで言わないと、  
後悔すると思った。

A black and white illustration of a man in a suit walking through a subway station. He is carrying a briefcase and looking towards the right. In the background, there are subway tracks, a platform with other people, and a sign with a cross symbol.

そしてこの悲しき  
葬式から五年後、

私の予想を遥かに  
超えた『六本木  
クラブ襲撃事件』  
が起きてしまう。

※2012年に東京・六本木のクラブで  
準暴力団『関東連合』の集団襲撃により、  
男性が死亡した事件。

A black and white illustration of a man in a suit walking past a crowd of people. He is carrying a briefcase and looking towards the right. In the background, there are several people, some of whom are looking at him. A sign with the word 'GERS' is visible on the left.

最近  
『東京リベンジャーズ』  
なんて漫画が  
流行っているそうだが、  
実はあの漫画は  
あながち嘘ではない。



『東京卍リベンジャーズ』は、  
 冴えない二十代の  
 フリーターが、  
 不良だった中学時代に  
 タイムリープし、  
 抗争に巻き込まれて死んだ  
 かつての恋人や仲間たちを  
 助けながら、  
 新たな未来をつくるために  
 奮闘するストーリーだ。

意図しているのか、  
 それともただの偶然か、  
 この漫画に登場する  
 『東京卍會』という  
 暴走族と同じく、  
 「卍」をシンボルにした  
 暴走族が存在していた。

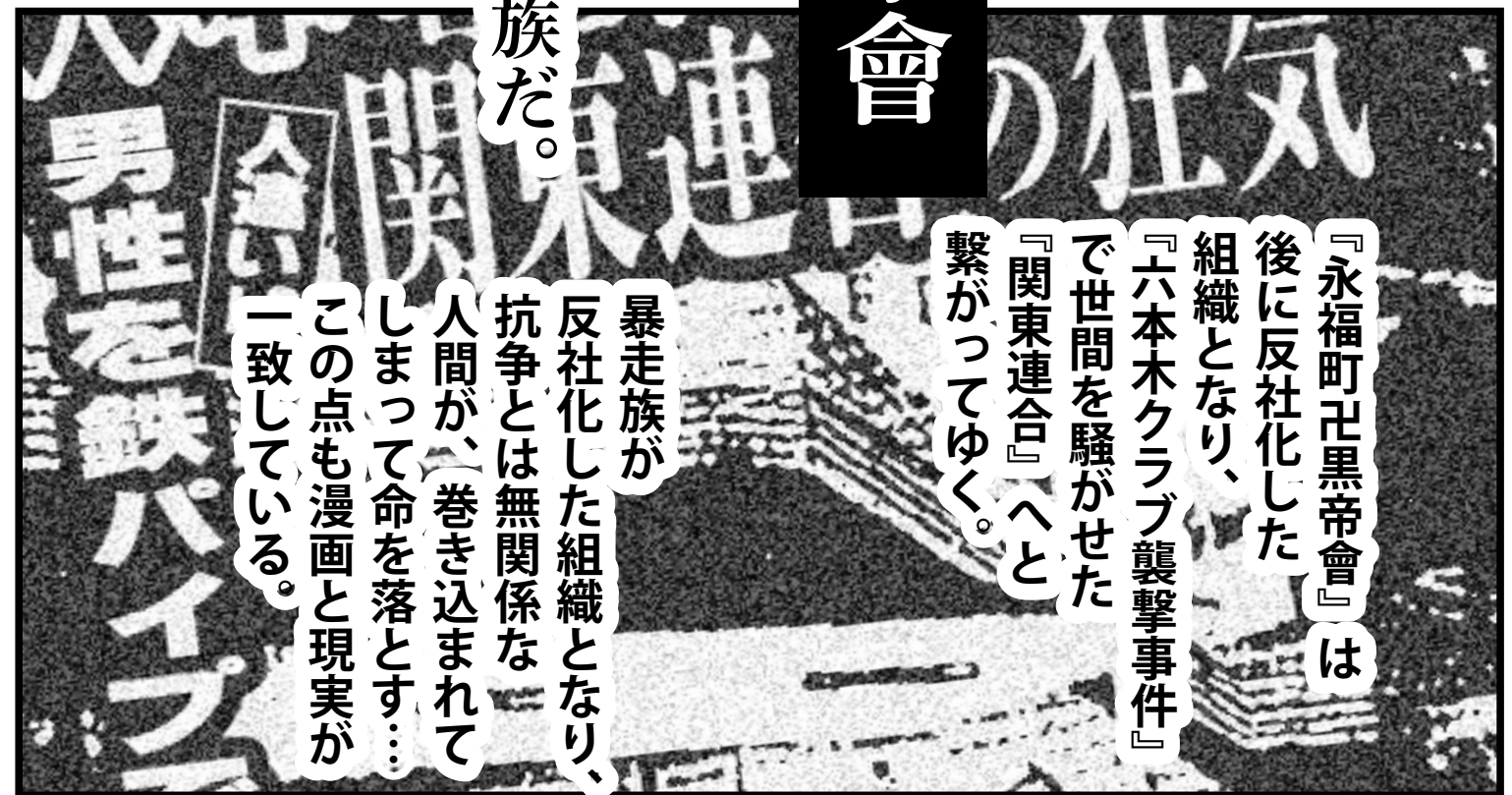
# 永福町卍黒帝會



見立真二が  
 頭を張っていた暴走族だ。

『永福町卍黒帝會』は  
 後に反社化した  
 組織となり、  
 『六本木クラブ襲撃事件』  
 で世間を騒がせた  
 『関東連合』へと  
 繋がってゆく。

暴走族が  
 反社化した組織となり、  
 抗争とは無関係な  
 人間が、巻き込まれて  
 しまつて命を落とす…  
 この点も漫画と現実が  
 一致している。



漫画『東京リベンジャーズ』は、  
見立たちの渋谷での  
この写真の構図をわざわざ  
漫画の中で登場させている。



確信犯でしょ？  
作者も、集英社も、  
メシのネタに  
ただ、するだけですか？

オレたちは、  
リベンジしないと、  
ならないでしょうが！



六本木クラブ事件の  
関係者の多くが、  
出頭して  
懲役行きとなった。





中には十年近くも  
刑務所の中で  
過ごした者もいる。



しかし見立だけは  
出頭せず、  
逮捕されていない。

六本木クラブ事件の当日、  
警察が成田に  
網を張るより早く、  
見立は海外へと逃亡した。



映画『HEAT』の中で  
ロバート・デニロ  
演じる悪役が、

いざとなれば  
10秒フラットで  
この街を出る。

と言っていたが、  
とんでもない速さで、  
ヤツは国外へ  
出たのである。

暴力は  
何の解決にも  
ならない。



かつて私たちは愚かにも、  
「喧嘩」という暴力に  
価値を見いだしていた。

私はトワイヌ・ボーンを  
果たすことができたが、  
金村先輩は殺され、  
見立は抗争の果てに、  
重要指名手配となった。

「運命」とは  
数奇なものだ。

選択を間違っていたら、  
殺されていたのは、  
私だったかもしれないし、  
指名手配されていたのも  
私だったかもしれない。

# 重要指名手配



殺人  
凶器準備集合  
たにやまひでゆき  
**谷山秀行**


現在 45歳  
身長 174cm位  
体格 がっちり

懸賞金上限額 **600**


警視庁特別凶悪犯

しかしそれは  
単なる偶然ではない。





これから私が語る内容は、  
冗談でも戯言でもなく、  
確かなる真実である。



しかしその真実を  
日本人が知った時、  
日本は確実に  
夜明けへと向かい、  
新たな時代を  
迎えることだろう。

# 与国 秀行 最新刊

# Amazon で販売中!



電子書籍 1,500 円



文庫本 880 円

その他にも オーディオブック  
『武士道を行く』 →



←与国秀行作詞 『BUSHIDO42』  
「MONONOFU」、「甦れ大和魂よ」他全21曲